

光星、来年度に単位制 少子化背景に独自色

八戸学院光星高校(小野崎龍一校長)は2018年度から、普通、保育福祉、ビジネス、工業技術の全4学科(いずれも全日制)で単位制を導入し、生徒自身が授業科目を選べるようにする。少子化を背景に、多様な希望に応えるカリキュ



ラムの高校として独自色を打ち出す狙い。27日、小野

単位制への移行を発表する八戸学院光星高校の小野崎校長

北、弘前南のいずれも公立となっており、八戸学院光星が移行すれば県内私立では初めてと

崎校長が同校で発表した。文部科学省が17年3月末に公表した調査結果によると、県内では公立17校、私立3校が単位制を導入している。全日制普通科で導入しているのは青森東、八戸

なる。

定員が最大の普通科(17年度160人)は「大学進学重視型」とし、国公立大志望、医療看護系大志望など、生徒それぞれの希望進路に合わせた科目選択をしやすいとする。前期後期制を導入するほか系列の八戸学院大学・同短期大学部で生徒が講義を受講し単位認定を受ける「高大連携」も進める。保育福祉、ビジネス、工業技術の専門学科は、国の基準内で生徒が科目選択できるようにする。小野崎校長は会見で「生徒自らが学びを選択することが、主体的

に学ぶ態度の育成につながる」と語った。(新村菜穂)